

会 議 要 旨

会議の名称	令和元年度 第4回川越市文化財保護審議会
開催日時	令和2年2月6日(木) 13時30分 開会 ・ 15時 閉会
開催場所	第1委員会室
議長(会長)	山野会長
出席委員(人数)	大久根委員、小久保委員、酒井委員、佐藤委員、羽生委員、馬場委員、 牧野委員、松尾副会長、水上委員、山野会長 (10名)
欠席委員(人数)	林委員 (1名)
傍聴者	0名
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 3 会議の傍聴について 4 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 前回の会議について (2) 初雁公園整備事業について (3) 河越館跡史跡等買上げ事業の進捗について (4) 「川越市の文化財」改訂作業について (5) 旧川越織物市場整備事業について (6) 市内古民家について 5 その他 6 閉会
その他	報告(5)説明 都市景観課 福釜課長、木屋野副主幹

議事の経過

報告事項

(1) 前回の会議について

(事務局より説明)

(2) 初雁公園整備事業について

(事務局より説明) 今年度は市道の付け替え部分を発掘調査している。慶応の頃に展開したと思われる堀2つが出ており、慶応3年の川越城図の精度が高いことがわかった。2号堀は本丸と二の丸の間に展開する堀の一部で、法面が大きく3つの土層が見えている。一番古い部分は60度を超える急な斜面で戦国期のカワラケが出土しており、戦国時代の河越城の堀ではないかとみられる。新しい土層は細かく丁寧な版築がされており、後北条氏の降伏後、徳川家が埋め込んだ跡ではないかと考えている。

【意見・質疑応答】

○中世の堀は斜面の角度が急で近世は緩やかとのことだが、戦争がなくなったからだろうか。

(回答) 市内の事例では、近世は中ノ門堀跡があるが急な勾配ではない。川越城の堀は石垣でなく土塁のため、急な堀では崩れてしまうということもある。特別支援学校の南側に戦国時代と思われる堀があったが、70度以上の崖に近い急な斜面だった。

○南側に焦土が混じった層があったのはどう解釈しているか。

(回答) 発掘現場の表土2mほどが焦土で2種類に分かれる。戦中・戦後の近所の商家の名前が入ったガラス瓶などが混じった焦土層と、本瓦が大量に混じった焦土層だ。本瓦のみで棧瓦が混じっていないため、江戸期の火災の始末と思われ、二の丸御殿のものである可能性が高いと考えている。

(3) 河越館跡史跡等買上げ事業の進捗について

(事務局より説明) 河越館跡でまだ公有地化されていなかった2,619㎡について今年度取得した。12月初旬に既に登記して市の所有となっている。引き渡しは3月25日の予定となっている。来年度は史跡外の用地を取得する予定となっている。

(4) 「川越市の文化財」改訂作業について

(事務局より説明) 「川越市の文化財」を改訂するのにあたり、文化財ごとに現物調査、写真撮影、原稿執筆を令和3年度までに終わらせる予定である。各委員は担当文化財の調査と執筆を進めてほしい。

(5) 旧川越織物市場整備事業について

(都市景観課より説明) 旧川越織物市場整備事業は平成27・28年度に基本設計、実施設計を行い、平成29年度には全解体調査を実施した。平成30年度に業者と復原等工事の契約をしたが、契約不履行のため契約解除となり工事がストップしている。平成31年2月に再度JVの形式で一般競争入札をしたが、入札執行中止となった。その後、業者へのヒアリングや他市町村への照会等を行い、事業者が参入しやすい方法の検討や設計の見直しをしている。現在、現地はほぼ更地になっており、一部残っている旧栄養食配給所の解体をしている。

【意見・質疑応答】

○設計の見直し、整備内容の追加とはどういうものか。文化財について変更があればこちらに

議事の経過

報告してほしい。

(回答) 文化財建造物は原則変更せず、新築の建物や外構を中心に変更する。整備内容の追加は、広場の活用に関わる部分や、災害時のマンホールトイレの設置などを考えている。

○文化財の復原・修復ではお金や工期の問題がある。バランスを取って、工期やお金のせいでできないということをなるべく少なくしてほしい。

○完成後の文化創造インキュベーション施設として、クリエイターの募集といったことの進み具合はどうか。

(回答) 昨年度、若手アーティスト等に興味を持ってもらうため、サウンディング調査をした。運営や活用ができるという業者 10 者の申し込みがありヒアリングした。運営コストについても並行して調べている。

(6) 市内古民家について

(個人情報のため非公開)